



本日は、未来講座に参加した2年生の柴田君と押君に加え、震災復興ボランティアに参加経験のある5年生3名を交えてお話を伺いました。

未来講座に参加したきっかけは？

柴田) 光本先生に声をかけていただいたことが最初なのですが、実は先の震災で東北の友人を亡くしました。この1年間、薬学生としていろいろな震災については考えてきたこともあって、いい機会だと思い参加しました。

押) 僕は、「学部横断プログラム」という言葉に魅かれました。いろいろな学部で学んでいる学生と、一つのテーマ、しかも「震災と復興」という大きなテーマに、お互いの意見交換ができることに魅力を感じて参加しました。

未来講座では、何を感じましたか？

柴田) 最初の講座で、国内外で災害医療に従事されている小林先生(日本赤十字社医療センター)の講演を耳にして……いろいろと自分で考えてきたこともありましたが、「現実とは、簡単なことではないな」と思いました。でも、今の自分でも、「何かできることはあるんじゃないかな」とも思えました。

押) 僕たちは、「被災地の方々に向けた健康情報」を作成・発信しました。Webなどの媒体にアップしたのですが、なかなかアクセスにつながらなくて……。「作成した情報が、いけなかったのかな」とか、「情報の提供手段が悪かったのかな」とかいろいろ考えました。

柴田) 僕たちは今回、現地に足を運んで「生の声」を拾うことができませんでした。対象者のニーズにマッチした情報、そしてその提供手段をもう少し深く考える必要があるんだな、と改めて考えました。

押) そう。だから今度、2人で現地に足を運んで、自分たちの目や耳でしっかりと状況を確認しようって話合っています。復興支援はいろいろな形があるだろうし、これからも「やらなきゃいけないこと」はたくさんあると思いますので。

ボランティアに参加されて……

堀内) 最初に現地に赴いたのは震災10日後くらいでした。親族が相馬市におり、いても立ってもいられなくなり、とりあえず車のトランクにインスタント食品やらティッシュペーパーやら日用品を詰め込んで……。でも、千葉に戻ってきてから「何もできなかった」という脱力感とともに、「また東北に行って、何かをしたい」という気持ちになりました。

村上) そんな時、「ボランティアに行こう」ってことになったよね。私は大学に入ってこれまで、「自分の意図で、自分一人で行ったこと」という自信が持てなかったんです。すごく「エゴ」になってしまってますけど、「もし、1人でボランティアに行ったら、自分の殻が1枚破れるかな」って思って……

赤川) そういう気持ちってわかるな。最初の1歩ってなかなか難しいよね。でも、「実際に行ったこと、そして行動したこと、感じたこと」が全てだよ。

現地では、何をされたのですか？

堀内) 私と赤川君が行ったのは、被災地住民の「避難行動アンケート」のデータ入力に関する作業でした。

た。今回は現地医師の指導のもと、全国の大学生が同じ活動に参加していました。

赤川) ホント、医学生や看護学生、たくさんの学生が参加していたよね。現地の医師の先生のお話や同じ活動に参加していた学生との出会いは僕にとって衝撃でした。みんな、明確な目標や意思を持っていて……。こういう表現が適切かどうかかわからないけど、「人間のスケールが大きい」って思いました。同じ大学生なのに……。僕は将来、病院薬剤師として働きたいと思っていて、そのためにいろいろな経験を重ねていきたいと思っているから、今回出会った仲間は、今の、そしてこれからの僕にとって、とても大きな財産になりました。

今、そしてこれから……

赤川) 今回知り合った学生が所属している、日本国際医療学会学生部(jaih-s)やこどもと共に学ぶ会(WiNG)という団体に入会しました。WiNGでは毎週日曜にインターネットミーティングを開いていて、いろいろと情報交換を行っています。今は素直に、「自分がチャレンジしたいことに積極的に参加しよう」という気持ちです。

村上) 私は今回の震災と復興支援の過程で、「情報の在り方」について、とても考えさせられました。メディアではいろんな情報が流されているけど、「どの情報が正しいの」って思うことがいろいろありました。多くの人は結局、「衆に従う」ではないけど、大きな声に賛同している気がしました。医療者として「正しい情報とその発信」ということがとても大事に思えました。

柴田) 僕たちは今回、未来講座で「情報の発信」を目的に活動したんですが、「情報提供」って、とても難しいことなんです。先輩たちの話を聞いていて、とても勉強になります。

堀内) みんなそれぞれが、「今、やるべきこと」を選択して毎日過ごしているんだけど、ボランティアに参加する前は、ちょっと「逃げてた」ところがあったのかなって思いました。現地に行くことって、何か称賛されがちだけど、それが全てではないと思います。今の自分に何ができるのか、何をやるべきかをしっかり考えて、自分の意思に基づいて毎日過ごすことが大事だと思いました。私は将来、親族のいる相馬市で薬剤師として活躍したいという目標があって、でもそのために「今、しっかりと勉強すること」も復興支援の一つの形だと信じています。



2年生 押 範之
千葉県 千葉国際高等学校出身



5年生 赤川 善彦
千葉県 市川北高等学校出身



2年生 柴田 亘
青森県 松風聖高等学校出身



5年生 村上 愛
神奈川県 相洋高等学校出身



5年生 堀内 麻美
千葉県 富里高等学校出身

城西国際大学寄附講座「未来講座: 21世紀人材育成 Program」

企業から応援を得ることで実現する、学生主体で学ぶ講座です。学部・学科を横断しリーダーシップや問題解決力、実践力を鍛えるプログラムです。自発的で主体的な探究心を目覚めさせるようなフレッシュなテーマで毎年開講されます。

城西国際大学の6年制薬学教育

「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

第97回 薬剤師国家試験（平成24年3月実施） **合格率 97.0%**

全国平均 95.3% 私立大学平均 95.3% 全国私学薬学部 25位 / 50大学



薬物治療の専門家育成



臨床検査に強い薬剤師育成



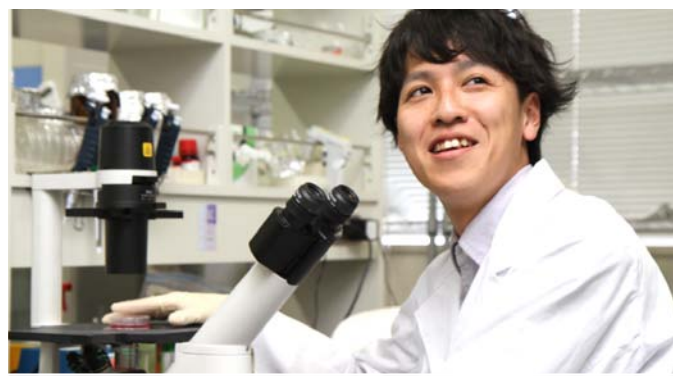
地域医療の担い手になる薬剤師育成



地域保健福祉に貢献する薬剤師育成



国際感覚を身につけた薬剤師育成



研究マインドを発揮できる薬剤師育成

2012年4月開設 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程（4年）